

薄

石田 凌風

『鬼が住む淺間を前の薄かな』之れは丸山先生が薄の繪はがきに題して一昨年の秋お送り下さつたものである、其頃「みづゑ」に先生の秋の自然と云ふ文章が載つて居た、其の中に薄の美しいことが書いてあつた、自分は非常に薄が好きであるが、それで云つて別に深く研究した事もない、唯好きであるから好きなことを書いて見る、無論丸山先生の秋の自然をもととして自分の感想を加へたものに過ぎないのである。

秋の野には色々の花が澤山咲いてゐるが、秋の野に最も多くて秋の感を一層強からしむるものは薄であらふ。

薄は他の花の様に、庭に植えて賞美するには適しないが、之れが廣い野原や山腹や堤防等に群つて、幾千萬とも知れぬ多くの穂がつく／＼と立つて開いて居るのや、又裾野などの、見渡す限り目も杳かに、尾花が山おろしの風に白銀の波を颯ぐる様は眞に壯大な光景である。

彼の優しいなよ／＼とした女郎花や野菊が、この堅い薄の中に咲くのは面白い調和でないか。此外、つるもどき、さざりんぢら等も、薄に雜つて秋の野を美しくし、秋の色彩を豊富にして居る。

露を宿せる薄が、夕月に輝く様は、又なく優美なものである。薄の葉や花が、己に美妙的な曲線である、其れに露と云ふ多情な

ものを飾つて、美しい夕月の光に輝やかせるのであるから。

時雨の薄は潇洒なものである、薫園氏の歌

ほほけては銀色なせる稗薄に

おなし色なる朝しぐれすも

といふのは、之れを美化されたものである、其の儘模様にもすれば氣のきいたものが出来るであらふ。

雨の中に一二本立つて居る薄は非常に淋しいものである、古事記にある大國主命の歌に之れが巧く使ふてある、命が、正妃須勢理姫の嫉妬に堪えずして逃げ様となさる時、馬の鐙に片足を掛け、右手を鞍にかけて姫をふり返り、綺麗な長歌をお歌ひになる、次の様な意味の

黒い着物を着て沖に住む鳥の羽撃ハバタキする様にして胸を見たが、

一向似付かないからやめて、又磯邊に馬を立てて、川蟬の様な青い着物を着て、又同じ様にして見たが、之れも似つかない

ので、山の畑に植ゑておいた茜をとつて染めた赤い着物を出して着て見たが、實に能く似合ふ。

さて愛らしき吾妻よ、群鳥ムレドリの飛び立つ如く、引鳥ヒキドリの引かるる

様に、御身は別れても泣かぬと云ふだらふけれど、一人になつて山ヒトモトにある一本の薄、朝雨の霧の中に立てる一本の薄の様に淋しいだらふよ、若草の妻のみこよ

と實に巧な美しい譬喩ではないか、さすがの須勢理姫も遂に我を折つて

八千鈔の神よ、君は男であるから求むる儘に美しい女がいく

らもありませう、然し私は女であるから、君をおきて男はな
い、君をおきてまはけない、どうぞ逃げずにおやめ下さいまし
二人で仲よく暮しませう

と、否之れ處でない、もつと強い意味の歌をお歌ひになつたの
で仲直りが出来たとか。薄の話が飛んだ横道へそれたから又元
へもどる。

薄は古代から屋根を葺く料とし使はれてゐる、山村の茅屋は非
常に趣味のあるもので、殊に薄の穂が白く靡いてゐる中に、一
軒の農家があつて、軒端には柿の葉が紅葉して、金色の果實が
秋の夕日に照され、後の雑木林には鯛が鳴いて居る等は丹波等
に多い景色であるが、自分ほ之れが純日本の風景であらうと思ふ。

晩秋の野は實に荒涼たるものである、稻田は刈られ、美しかつ
た花も枯れ、落葉樹の葉は落ち盡して、鳴く虫の音も何となく
憐れに聞える、梢を鳴らす木枯の風が、蕭々として尾花の上を
渡る時、ああ此時こそ眞に淋しみを感ずる時である。(九月十五日)

日本水彩畫會新會友

徳島縣川島町八七〇

福岡縣柳川町瀬高町二九

静岡縣富士郡大宮町

中高一

富安道義

石井眞峯

寄書

飯山素絢畫會記錄抄録

明治四十年五月五日同志二三と語りひ水彩畫の研究を目的とし
スケッチ會なるものを組織し、同日森本香谷氏の寓居に於て發
會式を舉行せり、爾來入會者續々申込ありしを以て、研究所を
飯山中學校圖畫室に移し、左の内規を定めたり

一會員、中學生の入會者において三學年以上の者たるべきと

一會期、毎月第一、第二日曜日に開會し午前は主として靜物の

寫生をなし、午後は郊外の寫生とし、隨時作品の互評會を開

くこと

以上の各項を議定し、次で幹事の互撰を行へしに、岡登貞治、
石田次郎の二氏當撰せり、同日入江木堂氏の撰定を請ひ、會名
を素絢と命ず。

同年九月廿七日より二日間、本部教育品展覽會開催を機とし、
會員の作品八十余點を陳列し、こゝに第一回繪畫展覽會を開き
たり。

四十一年三月廿五日、幹事岡登貞治氏は美術學校に、同石田次
郎氏は早稲田にいつれも入學上京に付、本會外部會員とし、市
川淨、小林重治の二氏代て幹事に就任す。

同年五月三日、本會創立一周年紀念會を圖畫室に開き、内外會
員の作品四十八點、參考として丸山晚霞氏の作品數點を陳列し
來賓の觀覽に供せり。